

# 山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi  
Veterinary Medical Association

第 716 号 令和 3 年 1 月

## 謹 賀 新 年

### 新 年 の ご 挨拶

会長 田 中 尚 秋



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方をはじめ関係各位におかれましては、ご清栄にて新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も皆様方のご健勝でご活躍くださいますことを心からお祈り申し上げます。

旧年中は、本会の諸事業の運営・推進に当たり格別のご厚誼とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。昨年は何と申しましてもCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）に翻弄された1年でありました。感染が世界中に拡大する中、3月下旬、東京オリンピック、パラリンピックの中止、延期が決定され本年に持ち越されるなど大混乱を招きました。日本獣医師会をはじめ、各地方獣医師会においても重要な会議、事業が開催できない状況となり、本会も同様に主な諸事業が中止、あるいは規模を縮小しての実施となりました。そういう中で、新しい生活様式が提唱され、テレワークなども普及してまいりました。従来のように一堂に会して会議を行うのではなく、情報媒体を活用して自宅にしながら会議に参加できるWeb会議なども増えてまいりました。感染は、夏場一旦落ち着いたかに見えましたが、11月以降新規感染者数が過去最多を更新し続けており、現在、医療体制のひっ迫が大きな懸念材料となっています。そういう中で、12月に入りイギリスに続いてアメリカにおいてもワクチン接種が始まりました。日本でも2、3月頃から開始されるであろうとの報道もあり、大いに期待申し上げているところです。ほかにも各国、各社でワクチン開発が進められており、全世界で早急に接種できるようになり1日も早く従来どおりの日常生活に戻るよう期待するばかりです。

一方、家畜衛生分野では、CSF（豚熱）騒動がワクチン接種の開始等によりようやく沈静化してまいりましたが、今度は、高病原性鳥インフルエンザが猛威を振り始め、現在も感染拡大が続いており予断を許さない状況になっています。ほかにも口蹄疫やASF（アフリカ豚熱）などその防疫に気が抜けない状態が続いています。今年は東京オリンピックが開催される予定であり、人数制限等検討されているとはいえ外国から多くの人々の入国があると思われ、越境性疾病の侵入防止には入念な対策を講じる必要があります。また、公衆衛生・小動物分野関連では、近年、国内での感染事例はありませんが、輸入感染症例（外国で咬傷を受け国内で発症）がみられる狂犬病にも引き続き注意を払っていく必要があるでしょう。

さて、日本獣医師会等を中心に長年検討・要請して

きた「動物の愛護及び管理に関する法律等の一部を改正する法律」及び「愛玩動物看護師法」が令和元年6月に公布され、経過措置があるものの、今後、出生後56日を経過しない犬・猫の販売規制（いわゆる8週齢規制）や販売用の犬・猫に対してマイクロチップの装着・登録が義務化され、また、愛玩動物看護師法の成立により小動物獣医療分野における動物看護業務の国家資格化が図られることとなりました。試験及び免許登録に関する事務については、農林水産大臣及び環境大臣が指定した機関に行わせることができるとされ、昨年2月にその機関として一般財団法人動物看護師統一認定機構が指定されたところです。愛玩動物看護師の業務の範囲、その業務を行うために大学や養成所で履修すべき科目など制度の細部については、検討会での検討結果を踏まえ、令和3年度中に関係政省令が整備される予定であり、それらを注視しつつ今後の本格的施行に備えて具体的な準備をすすめていく必要があると考えております。なお、この法律は、令和4年5月1日から施行されることとなりました。

ところで、本年は丑年であります。「丑」の本来の意味は「からむ」という意味があるそうで、芽が種子の中で伸びることができない状態を表しているそうです。そういうことから、丑年には、先を急がず目の前のことを着実に進めることが将来の成功につながると言われております。マイクロチップ登録の推進については引き続き普及啓蒙を図りつつ、まずは、指定登録機関に日本獣医師会が認定されることを期待し、認定された場合、その事務が順調に推移できるように我々地方獣医師会もしっかり準備を進めてまいりたいと思います。また、まさに国難ともいえるべき新型コロナ騒動ですが、国民一人一人が3密（密閉・密集・密接）を避け、ソーシャルディスタンスを心掛けながら地道に対応し、ワクチン接種を受ける、などすることで必ずや次第に収まってくれるものと期待いたします。今できることを着実に実施してまいりましょう。

昨年、本会のホームページが一新され会員専用バーナーが設けられました。会員への情報発信が瞬時にできるようになったことは、今後、発災時を含めいろいろな面で大きな力を発揮してくれるものと大いに期待しているところです。

本年も、本会が事業の3本柱として取り組んでいる医師会と連携して進めるOne Healthに係る事業、マイクロチップ装着の普及推進、災害時における動物救護対策等の事業をさらに推進・深化させたいと考えてい

るところです。

会員諸氏をはじめ、関係各位の一層のご協力・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさ

せていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶

山口県獣医師会の皆様、新年明けましておめでとうございます。新年を迎えるにあたり、昨年のご報告と今年の抱負を述べさせていただきます。

令和2年は世界中においてCOVID-19の嵐が吹き荒れ、未曾有の危機に面した年となってしまいました。山口大学においても同様であり、卒業式と入学式の中止、学生の大学への登校制限と遠隔授業の実施など、これまでに経験したことのない状況となりました。

共同獣医学部は2019年6月に欧州獣医学教育機関協会(EAEVE)による訪問審査を受け、獣医学教育認証を取得していましたが、2020年のEAEVE認証作業はすべて保留となっており、2019年中に取得できたのは幸いです。ヨーロッパは日本以上にCOVID-19の影響を受けていることから、今後、正常な認証作業に戻るには時間を要するだろうと思われま

す。共同獣医学部においても、昨年度当初は全ての講義と実習を録画配信することが求められました。幸いなことに共同獣医学部では、日頃より鹿児島大学との間で遠隔講義を実施しており、学生も教員も戸惑いなく録画配信授業に移行する事ができました。また、学生の評価を見ても、自身のペースで授業を視聴することができるなど、これまでと遜色のない授業が実施できていたように思われます。一方、国際水準の獣医学教

山口大学共同獣医学部 学部長 佐藤 晃 一

育において重要な「Hands On実習」は、5月下旬まではほとんど実施できませんでした。しかし、大学本部との話しあいで6月からは3密に配慮して実施する事が認められ、学生への影響は最低限にとどめることができました。2021年は、教育にどのような影響が出るか不透明ではありますが、できることを行い、学生へ最良の教育を実施したいと考えています。

このような状況においても、共同獣医学部はアフターコロナを見据えて、世界との繋がりを強化しています。2017年から実施している機能強化事業ではインドネシアとの繋がりを強化し、現在7名の留学生を受け入れています。また、昨年12月には世界展開力強化事業に採択され、今後アフリカとの連携を強化する予定です。さらに、欧州においては4月にはスペイン・サラゴサ大学より留学生を受け入れる予定ですし、イギリス・エジンバラ大学とも教育研究交流を強化することになっています。

今後も、山口県獣医師会をはじめ学外諸機関には、様々な場面で連携をお願いすることになりますが、引き続き皆様のご協力とご助言を賜れば幸いです。

最後になりますが、令和3年が皆様にとって良い一年となりますよう心よりお祈り致します。



## 新年の御挨拶

山口県畜産振興課長 三宅 俊三

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、平素から本県の畜産振興に格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年11月に香川県の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認され、その後も西日本での感染が拡大し、過去最多となる200万羽を超える鶏が殺処分されています。

このため、国の専門家会議である家きん疾病小委員会では、「今シーズンの高病原性鳥インフルエンザは、海外でも発生が続き、国内の野鳥でも相次いでウイルスが確認されていることから、全国的に例年よりも感染リスクが高い状況にあることを意識して、引き続き飼養衛生管理を徹底し、更なる警戒に努める必要がある」と緊急提言を行っています。

県では、香川県等での発生を踏まえ、養鶏場の緊急消毒や立入検査を行い、飼養衛生管理基準の遵守指導や異状発見時における早期通報の徹底、モニタリング検査の追加実施等、監視体制の一層の強化を図ってい

るところです。

なお、万が一県内農場で発生した場合に備え、迅速な初動防疫に必要な防疫資材の備蓄や、防疫作業を円滑に行うため、資機材供給業者等との防疫協定の締結による支援体制の整備等を行っています。

また、本病だけでなく、国内では豚熱に感染した野生イノシシが引き続き確認されているほか、東アジアではアフリカ豚熱等も継続的に発生しており、予断を許さない状況が続いています。

このため、今後も気を緩めることなく、生産者や関係機関、行政が一体となって家畜防疫対策に取り組んでいくことが大変重要と考えておりますので、高い見識と技術を有する会員の皆様の御支援、御協力をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、山口県獣医師会の今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝、御活躍を祈念し、新年の御挨拶とさせていただきます。



## 新年のご挨拶

山口県環境生活部審議監兼生活衛生課長 白銀 政利

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、健やかに新年をお過ごしのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は、人類がかつて経験したことがない新型コロナウイルス感染症の流行が起こった年であり、その対策に終始した一年でした。お陰様で、県民生活に密接した業務を所管する当課としては、多忙な日々を過ごすこととなりました。

この感染症の流行によって大きなダメージを受けた業界の一つに飲食業界があります。昨年4月に関係組合からの知事要望を受け、当部でできる飲食店応援の取組として、「新型コロナウイルス対策取組宣言飲食店応援制度」を創設し、国のGo To Eatキャンペーン事業とも連携し、県民が安心して飲食店を選択・利用できる取組を開始しました。関係部局が創設した「営業持続化等支援金」や「営業持続化等補助金」などの直接支援制度においても、対象範囲や事業者数などの情報提供を行うとともに、制度設計にも積極的に関与してきました。

県内での患者の増加と重症者の発生に伴い、市町が設置する火葬場の受入体制の整備やご遺体の取扱いに関する庁内・関係団体との調整なども墓地埋葬法を所管する当課の役割として求められたものでした。

一方で、当該疾病は人の病気であり、犬や猫も感染はするが、これらの動物から人に感染した事例はなく、動物由来感染症としての共通認識はないのが現状であり、猫を屋内飼育する一人としてはホッとしています。

通常業務に目を向ければ、まず、令和元年の「動物の

愛護及び管理に関する法律」の改正に伴って、動物愛護管理員条例の制定や関係条例の一部改正など種々制度の整備を行いました。昨年4月には、法改正を踏まえた、国基本指針の改正が行われたので、貴会の協力も得ながら、「山口県動物愛護管理推進計画」の第二次改定作業に現在進行形で取り組んでいるところです。

次に、平成30年の食品衛生法改正に伴って、すべての食品関連事業者へのHACCP導入を促進する事業を精力的に進めるとともに、昨年3月に管理運営基準を改正(削除)し、12月には、施設基準の大改定を行う県条例改正が行われる運びとなっています。

さらに、昨年7月には、昭和60年策定の県基本構想を見直した「県水道ビジョン」を策定し、フォローアップ作業を進めているところです。

こうした様々な規制改正の波が、昨年に集中し、関係職員の業務負荷は大変なものであったろうと推察されます。衛生獣医の分野は、正に時代の変革期を迎えており、その制度設計に携わることができたことは光栄だと感じています。今春卒業となる自分にとって、改正制度等の運用まで行えないことは残念ですが、卒業後、県庁の外側から一県民として県の衛生獣医師を支える役回りを担わせていただければ幸いです。会員の皆様には、引き続き、県生活衛生行政への御協力、御指導をお願いいたします。

終わりに、公益社団法人山口県獣医師会のますますのご発展と、皆様のご健勝、ご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 謹んで新年のご祝詞を申し上げます

旧年中の御厚誼を深く感謝いたしますと共に本年も何卒よろしく御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年(2021年)

### 理事

会長理事 田中 尚秋  
副会長理事 中越 一郎  
常務理事 福島 和彦  
理事 赤岸 宏美  
奥原 達朗  
佐伯優紀恵  
酒井 理  
白永 伸行  
中村 滋  
新田 直正  
野崎 昭利  
山中 俊樹

### 監事

水原 孝之  
柳澤 郁成

### 支部長

玖珂 平田 勇  
熊毛 河村 和俊  
徳山 三谷 恭二  
防府 中野 正司  
山口 藤原 宣義  
美祢 吉村 正道  
宇部厚狭 米澤 弘雄  
長北 上村 光昭  
豊浦 水藤 創  
下関 山縣 純次  
県庁 小川 賀雄  
山口大学 高木 光博

### 部会長

産業動物部会 大谷 研文  
小動物部会 大黒屋 勉  
獣医公衆衛生部会 殿河内英雄

### 会報編集委員

上田 晋平 笠井 亨浩  
大石 大樹 坂田 芳則  
菅原 淳也 吉村 大 一郎  
三谷 藍 山下 太郎  
鹿島 貴朗 上林 聡之  
鶴田 祐哉 福島 和彦  
羽迫 広人

## 年男・年女の抱負



### 今日このごろ

玖珂支部 森 脇 百合雄

新年あけましておめでとうございます。

今年は生まれた年を入れて数えると、8回目の丑年の年男となり、自分ながら長生きをしたものだと思っております。次回の年男は無理でしょうね？

今は、自給自足を目指して米、野菜、草花「四季咲」を栽培していますがこれからも続けたいと考えています。

次は、趣味ですが、旅行が好きで、春は毎年、桜前線に沿って名所を巡ってきました。昨年は、北海道の松前園と二十間道路桜並木へ行く予定でしたが新型コロナウイルスの蔓延により行くことが出来ませんでした。

今年の秋は、奥日光と佐渡の紅葉を見に行きたいと思っておりますがどうなりますか。

早く新型コロナウイルスが終息するよう願っています。海外旅行は、数ヶ国行きましたが、行きたいと思って残った国、中国に行くのは今は無理でしょうね。

16年前に脳梗塞を発症し約1ヶ月間入院治療しました。後遺症は残らなかったのですが、高血圧となり現在も治療を続けています。日常生活には支障はありません。農作業を続けられるのも、好きな旅行に行けるのも、後遺症がなかったため感謝です。その後、健康管理の為、毎日1時間かけて15,000～20,000歩、歩くことを続けています。

今後も日常生活に留意し、元気に過ごしていきたいと思っております。新型コロナウイルスに感染しないよう気をつけたいと思っております。

## 年男からの報告

長北支部 稲原 輝 昭

(山口県動物保護管理協会)

早や83歳を迎えることができました。昭和35年に県職員となり平成10年までの38年間食品衛生、環境衛生、廃棄物、自然保護等の行政を重点的に取り組んできました。

退職後は、週3日のペースで動物愛護、食品衛生、環境関係団体、短期大学等に、また最近では県の自治会連合会副会長や萩市自治会連合会会長に就任し種々取組んでいます。また一方では心や身体のトレーニングの視点から芸北や山々等に登っています。写真は、我がふるさとの山華山の頂上で撮ったものです。

なお、本年9月には別添のとおり動物愛護、適正飼養等に長年積極的に取組んだ功績は大であるとの観点から環境大臣表彰を受けることができました。



## 6回目の「年男」を迎えて

山口支部 森 章

新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症をコントロールする術が未だ見つからないまま、はや1年が経過しようとしています。当ウイルスを含め、これからも出現するであろう未知の病原体に対し共存できるよう、立場の違いを乗り越え人々の知恵を結集したいものです。

先日、高校時代の友が亡くなったとの知らせが届きました。高校(佐賀県)卒業後、京都と山口に住み、お互い年賀状で近況を知らせあってきました。令和2年の年賀状に「年に1度の年賀状のお付き合いですが楽しみです。身体大切に」とあり、何故か気になっていました。特に親しかった友であり、寂しさを禁じえません。

山口大学V19の同期でも数名の友が鬼籍に入(い)っています。

以前は思ってもいなかったことですが、最近、起床した時、朝が迎えられたことに感謝するような感覚が少しですが芽生えてきました。他県で開業している友に話した時、笑っていましたけどね。



## 年男に思う

美祿支部 藤本 英三  
(ふじもと動物病院)

新年明けましておめでとうございます。5回目の時も原稿を書いたことを思い出して、あれから12年、月日の経過の早さを痛感しています。

昨年、運転免許の更新の連絡が来て、すぐに自動車学校に電話予約をして、高齢者の講習を受けるようにと書いてある。講習の修了証がなければ更新できないらしい。それまで約5ヶ月程度の期間があるのでゆっくり構えていたが、新聞の投稿欄に都会の人が、すぐ予約を入れたが期間までに間に合わないという記事があった。慌てて予約を入ると、2ヶ月先に予約ができた。少し余裕があったので、田舎で良かったと安堵した。

その後、10年目の車検の案内が来たので、そのまま受けるつもりでいたが、もう車を更新するのならこれが最後になるかも、ということで新車に買い換えた。

新年の抱負など無いが、事故を起こさないよう安全運転に気をつけようと思う。



## 吉田松陰を学ぶ

山口支部 内田 和克

郷土の偉人吉田松陰について、60歳を機に改めて学ぶことを思い立ちました。

松陰の研究・研修を事業としている松風会(教育会館内)の松陰研修塾基礎コースに平成20年度に入塾し約10年間籍を置き学んでいます。松陰の生涯、人生観、松下村塾教育、留魂録を読むなど多彩な講義が行われます。講義に触れるたびに松陰の偉大さを日々感じ取っています。書物だけではなかなか難解で取り組みがたい内容でしたが、年5回開かれる研修塾では、各先生方の豊富な知識でわかりやすく学ぶことが出来、現代人として歴史をどう読み解くかおもしろさにひかれます。この受講をきっかけに、平成25年度から萩市主催で行われた萩・幕末維新検定(現在は萩検定)に数年間挑戦し各コースを経て上級・師範コースを取得するに至りました。検定受験にあたり萩市内をはじめ幕末・維新ゆかりの地をさまざま巡り学習を重ねています。

研修塾や検定試験を経験することで、歴史の知識をより体系的に理解することができ、ますます興味を深めているところです。

脳の活性化を兼ね、その後も「萩ものしり博士検定」「やまぐち歴史・文化・自然検定」に挑んでおり、機械が動く限り油を注いでいきたいと思っています。



## 「時の経過は……」

山口支部 松田 芳行  
(松田獣医科医院)

「ボーと生きてんじゃねーよ!!」とチコちゃんがゲストを叱る番組の中で「年をとると何故月日の経つのが早い??」という節があった。その答えは「年をとるとトキメキが無いから……」だとか。

その時、数年前に中学時代の同級生が尋ねて来た時の事が頭に浮かんだ。彼は「4度結婚して、結局今は1人暮らしをしている……アツという間の人生だったな～」と呟いた。普通の人の数倍はトキメキがあっただろうに……と思えたのだが。

この文を書いている今は古関裕和さんをモデルとしたNHK朝ドラ「エール」の最終章で、作曲された東京オリンピックマーチを久々に聞いた。57年前、私が中学生時代の10月10日は土曜日の半ドン。午後からこの行進曲に合わせて入場する各国選手団をウキウキとして白黒テレビを見つめていた。6競技の16個の金メダル獲得シーンにも興奮したのを覚えている。これもトキメキ??

延期となった東京五輪・パラ大会が、再び月日の経過を遅くするトキメキが生じてくれるように、本年の開催を期待している。※半ドン、白黒テレビ……わかる?



## 年男からの…

玖珂支部 竹田 哲也  
(竹田動物病院)

新年あけましておめでとうございます。

私こと1949年(昭和24年)生まれの丑年です。一応65歳で仕事は引退いたしましたが、まだまだ、体力も気力もあり、終活ではなく就活のつもりでブドウの栽培を始めたり、シイタケ栽培を試み、DIYで築110年の古家を修理再生で囲炉裏部屋や薪ストーブを設置したゲストルームなどを作り、酒を呑み、友と語り、海外を旅して異文化に接し、諸々実践してきました。特に海外のたびは39回になりました。その内の29回は韓国の旅で、コレールパスを使用してKRの全路線を乗りつくし、今はバス路線で韓国の田舎を巡っておりま

す。異文化に触れることは脳の老化防止に役立つような気がします。韓国はパスポートさえあれば格安旅費で簡単に行ける隣国です。コロナ禍が終息し国交が正常化したら、皆様も試してみられたらいかがでしょうか。とは言いながら、私も次の丑年には80歳を超えております。その時も今回と同じように前向きな文章が書ければよいのですが、昨今、気力はありますが体力に少し老いを感じるこの頃です。皆様のご多幸をお祈りいたします。



## 牛の暖気も地球温暖化の一因？

県庁支部 徳重克彦  
(山口県環境生活部)

またまた12年回ってきましたよ、丑年。3回目の会報掲載。

手書き原稿から、ワープロ、パソコン。印刷せずメール送信、今やペーパーレスの時代。手書きの頃は、個性豊かな字体で、見ただけで誰か解ったものを、今や、内容はともかく、誰もがきれいな字で文章が作れ、しまいには本当に本人が書いたのかもわからなくなっている。便利なのか不便なのか。その上ハンコも不要になったら、個性はどうなるのか。時代の流れかもしれないけれど、獣医師は個性の塊というのが、自分が持ち続けてきた獣医師への印象です。

獣医師はある意味尖っていないとね。

そんな中に、コロナ禍が始まって、生活の様相が急変。昨年、当たり前前の生活がどれほど大切であるかを知らされた一年でありました。

人との接触が、これまで以上に希薄になる中、動物との触れ合いは、人が人として、心の正常を保っていくために大切なものと改めて思います。

還暦を迎える今年にあっても、まだまだ雑念多く、竹竿1本で過ごして行けるほどの達観した生き方には程遠い自分ではあります。

ウイズコロナの生活にも、まだまだ馴染まないけれど、牛歩乍ら、日々を反芻しつつ、着実に安心・安全な日常を送ることを心掛けたいと思っています。



## 丑年の抱負

熊毛支部 福島隆雅  
(ワールド動物病院)

会員の皆様 新年明けましておめでとうございます。COVID-19と言うパンデミックの中皆様いかがお過ごしでしょうか。27歳で開業し当初からペットブームと共に歩んでくることができました。小動物開業にとってまさに幸せな黄金期だったのではと思います。ここ5年はご高齢の飼い主さんと共に高齢動物たちが通う後期高齢専門動物病院の様相を呈してまいりました。心臓病やアレルギーなどの基礎疾患を持つ動物たちが他の病気に罹ってしまい治療に頭を抱えることも多くなりました。さて今年の抱負です。私は昔から60歳でリタイアするという人生設計を立てておりました。その頃になったら心身ともに疲れ切っているだろうから60歳になったら仕事をやめて豪華客船で世界一周すると知人たちに吹いておりました。ところがぎゅんまだまだ思いの外自分の仕事に対する情熱が残っていることに自分自身が驚いています。ああ私はこの仕事が好きなんだな、この仕事に生かされているんだなあと感じています。この思いを忘れることなく令和3年丑年を日々着実に大切に過ごしていこうと思います。獣医師会会員の皆様方のご健康とますますのご発展をお祈り申し上げます。



## 年男を迎えて

県庁支部 吾郷英昭  
(山口県産業戦略部)

まだまだ先とは思っていたが、干支をあと1周すれば県庁を卒業か(定年延長が無ければ・・・だが)。終活には早過ぎるとはいえ、第2の人生設計も考えておかなければと思う今日この頃。

獣医師となり、県庁に奉職して24年。獣医師という視点で自らを評価すれば、合格点には遠く及ばない。

勿論、大学時代は臨床系の講座に所属し、診療もした。県庁に入ってから、最初の10年間は、試験場や農大、家畜保健衛生所、牧場などで一通りの経験は積んだのだが。

だが、その後がいけない。平成19年度から現在までの14年間はずっと県庁勤務で、腕は鈍る一方というか、もはやペーパーか。

更には、今年度、とうとう農林水産部から産業戦略部に異動となり、令和3年度オープンの中口市産業交流拠点施設を核とした「ヘルスケア関連産業創出プロジェクト」の担当となった。全く、獣医師とは関係ない業務(笑うしかない)。

正直、今、現場に戻れと言われても、相当のリハビリは必要だし、畜産農家のお役に立てるレベルに戻れるかどうか、本当に心配(汗)。

産業戦略部では私ともう1人だけ技術職(土木)で、他は、皆、バリバリの事務職。なので、業務のスピード感、人

脈を活用した調整能力の高さなど、見習う点は非常に多い。

加えて、レクや協議が、部局内だけに留まらず、直接、県庁のトップ等に説明することも多くなり、ミーハーな気持ち半分、責任感から来る重圧など、なかなかできない経験をさせてもらっているなど感じている。

さあ、この貴重な経験をどう消化し、自分の成長につなげ、後進に伝えていかか。

これが残りのあと一回国、県庁生活で私に課せられた課題かな。



## 年男の抱負

山口支部 清 時 啓 史

(きよときペットクリニック)

新年明けましておめでとうございます。

山口市のきよときペットクリニックの清時です。11月号に登場したばかりでしばらく何も無いと思っていましたが、年男でした。この度、3度目の年男を迎えました。

年男ということでこの12年を振り返りますと、25歳で大学卒業・就職、程なく結婚・子供の誕生、28歳で開業と人生の中でも濃い12年ではあったように思います。24歳の時点ではこれほどハイペースにライフイベントをこなしていくとは思っていなかったように思いますが、やはりわからないものです。この先の12年は仕事をしっかり軌道にのせつつ何か新しいことができたらいいなと思います。家庭では12年後といえば子供たちが二十歳前後になりますので、無事巣立ってくれることを願いつつ巣立ってしまう前にしっかり家族の時間が持てたらいいなと思います。のんびりしたことを書きましたが、やはり思いがけないこともたくさん起きるでしょう。12年後のこの場ではどんなことが書けるか楽しみにしています。

大変な時代ですが、会員の皆様方の一層のご発展とご多幸をお祈り致します。



## 年男の抱負

長北支部 大 田 泰 三

(大田動物病院)

あけましておめでとうございます。

この度、年男ということで新年の抱負を獣医師会報に載せて頂きまして誠にありがとうございます。

Googleで丑年を検索しましたところ丑という漢字は中国で生まれ、「からむ」という意味があり、芽が種子の中で伸びることができない状態を表しているそうです。これを覚えやすくするために後に動物の牛が割り当てられたそうです。

さらに十二支の中で最も緩慢で動きの遅い牛の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年といわれています。

私事で言えば小動物臨床を始めてから10年が経過しようとしています。あっという間の10年間でしたが、とても充実していたと感じています。丑が表すように今年は着実かつ確実に物事を進め、身に着けていきたいと考えております。またこれから先様々な困難が待ち受けているでしょう。どれだけの困難であっても「やまない雨はない」の精神を肝に銘じて牛のように我慢強く解決していきたいと思っております。

まだまだコロナウイルスが落ち着かない中での新年となりました。日本中の経済、気持ちが落ち込んでいる状況です。そのような中でも着実に物事が少しずつ解決され、より明るい世の中になることを願っております。



## 丑年に生まれた牛農家の四男の丑年を振り返って

美祿支部 齋 藤 陽 之

(山口県農林総合技術センター畜産技術部)

皆さま、新年あけましておめでとうございます。

昭和60(1985)年の丑年に水稲と黒毛和種繁殖経営を営む農家に四男として生まれました。

1回目の年男のときに、小学校の参観日かなんかで将来の夢を発表する機会があり、実家に牛の診療と人工授精に来ていた開業獣医の先生に憧れ、獣医を志すことを宣言した記憶があります。ただ、その決意の熱が続いたのは、高校入学まで。高校3年生の進路相談で、担任の先生に獣医の目標を伝えると「お前は、真面目に言っているのか?」と言われる始末。予備校と複数年契約を結んだ後、麻布大学に入学しました。

2回目の年男を迎えたのは大学3年生のときで、大学の産業動物病院(主に牛)を管轄する研究室(内科学第三研究室)に入り、幼き頃に憧れた先生を目標に牛の臨床獣医の勉強に精を出していました。

そして、今年は畜産試験場で牛(受精卵)の担当として勤務しております。

年男のときは牛との直接的な接点が強くなるのかなと、振り返ってみて感じました。

牛との良好な関係を築き、いい丑年になることを願うばかりです。

皆様もい一年になりますように。本年もよろしくお祈り致します。

## 令和2年度第2回小動物部会委員会の開催

常務理事 福島和彦

標記部会委員会を令和2年12月3日（木）に県獣医師会館2階会議室で開催しましたので、その概要と委員会を受けた三役会議結果をお知らせします。なお、今回の委員会については、コロナ禍での開催であったため、開催の是非を問う声も委員の方からありましたが、次回3月理事会への報告事項、承認事項関連の協議もあり、開催したところです。

開催に当たり、田中会長理事から、「新型コロナウイルス感染症の拡大、今後は、インフルエンザとの混合感染にも注意が必要であること、県内でも、医療従事者の感染が見られるなどしている中で、希望あるニュースとしてワクチン開発が行われており、接種開始の報告もある。三密防止を行いつつ当面の感染防止を行いたい旨、更に産業動物部門では、高病原性鳥インフルエンザの発生が各地で見られ野鳥においても死亡個体、糞便、環境水からのウイルス検出が見られており全国的な広がりを窺わせていること、今年度の小動物部門の講習会について1回であったが開催することができ、講習内容の動画をホームページの会員専用バーナーに掲載したこと」などに加え「昨年12月に実施した獣医療関係者のSFTS抗体検査については、陽性率が全体で2%弱の状況であったこと、全国会長会議が中止となり意見として、動物看護師を含めた保険制度の照会を行ったこと等」と、今回は、狂犬病関連の事項を中心に協議を行うが忌憚のない意見をお願いするとの挨拶がありました。

続いて、大黒屋部会長が議長席に移動され会議が開催されました。

まず、**狂犬病予防注射実施状況（10月末実績）**については、集合注射が減少した一方では、前期の個別注射が増加した様に見られ、10月末で47,709頭の実績であり、昨年度実績に比較して3,481頭の減少であること、併せて、例年、後期の個別接種については、1,000～1,500頭程度実施されており、全体で5万頭弱を期待している旨の説明を行いました。次いで、**令和3年度狂犬病予防注射（集合注射）の市町協定について**（1）集合注射料金：前年と同額で、支部長会議後に第2回理事会承認を得て、市町に通知した旨を報告しました。本来であれば、小動物委員会の委員の方々の意見も聞くところですが、昨年料金改定を行っており、今後、改定が必要となれば市町の意見も聞きながら協議を行う旨の説明を行いました。また、市町への通知に併せて、市町広報用のテンプレートの配布を行った旨を説明したところです。（2）県広報の活用については、10月理事会承認後に、「ふれあい山口」の枠取りを実施し、その他「FM山口」の「県からのお知らせ」について、環境生活部長宛の公文依頼を行い了解が得られたこととその広報内容については、今後本会で詰める予定であることを説明しました。**指定獣医師の新規指定及び解除については**、関係支部からの提出者について、小動物部会委員会として承認されました。ま

た狂犬病予防に係る啓発チラシ・ポスターの作成・配布について図案、配布数について了解が得られ、委員会で決まった図案・配布数を印刷会社に依頼、年明けには、関係機関等に配布を予定しています。**山口県獣医師会狂犬病予防実施者指定要綱について**、現在の要綱を基に確認事項について説明等を行い、特に本会として、指定獣医師について「開業して少なくとも1年以上の診察経験を有する獣医師」を細則に記載し明文化を図りたい旨を説明しました。併せて、表彰規程についても明文化を行い、特に70歳未満で体調等の関係から解除申請を行われた方も一定年限、狂犬病予防に協力・従事して下さった獣医師も対象としたい旨を10月理事会に提案している事を説明しました。**SFTS陽性事例の集約管理体制について**、検査機関が現状3か所あり、県内の検査結果の県内共有ができていないことから陽性事例の集積を行いたい旨の説明を行いました。委員からは、「開業獣医師とすれば、どのような症状だったから検査依頼を行ったのかが知りたい。」「新型コロナ感染症でも陽性者の報告だけでなく、何件検査を行い何人陽性か発表している。同様に検査依頼を行った時点で本会へ報告を行い、その後陽性・陰性を区分、陽性事例内容の共有化ができないか。」等の意見がありました。後日、本会内部会議の場で検討し、「検査を依頼した時点で、依頼書（写し）を本会に提出して頂き、陽性結果報告を集積し小動物開業獣医師等との情報共有を図る。」こととなりました。なお、会員への詳細な依頼文書については、別途お送りすることとしております。

「愛玩動物看護師問題（国家試験前の受験、その後の国家試験）について」「チーム獣医療についての研修会開催」等の照会もありましたが、全国会議が中止のため、本会として愛玩動物看護師に関する詳しい情報が無い旨をお知らせしました。また、チーム獣医療としての研修会の開催等については、「小動物部会委員会内で検討して頂く。」ことを本会内部で話し合ったことをお伝えします。

なお、来年2月に計画している今年度第2回支部長会議で、より詳細な内容をお伝えしたいと思っております。



委員会中の田中会長（手前）と大黒屋部会長



## リレー随筆

### 近況報告

今回山口支部浦野先生よりリレー随筆のバトンを受け取りました山口支部ナナ動物病院の鈴木和弘と申します。結婚を機に山口県に来てから約14年、そして開業してから約11年が経ちました。神奈川出身で山口に土地勘がない私でしたが、周囲の先生方は強くそして優しく的確なご教示をしてくださり、少々厄介な症例も快く引き受けていただきました。皆様方のお陰で今の自分や病院が成り立ち、この14年は自分にとってかけがえのない月日となりました。

ありがとうございます。

昨今は、3密・自粛生活・一人キャンプなどの単語が出まわりますが、我が家も自粛生活をしながら、長女は無事中学生になり、次女は何度が保育園に落ちましたが、ようやく園に入ることができました。長女はだいぶ手が離れ、「パパ臭い!」といつ何時言われてしまうのか冷や冷やししながら次女の園の話の聞くのが毎日の楽しみになっております。

楽しみといえば、最近、アボカドとワインにはまりました。アボカドは、スーパーフードと呼ばれ野菜の中でも栄養価が高いといわれています。20代学生時代には不味いと思ったのですが、40代になって味覚が変わったのか、違いが分かる男に成長したのか、アボカド料理が美味しいと思えるようになりました。食卓にアボカドサラダが並べば大人げないですが、一人で独占して食べきってしまいます。

ワインは、ブドウの果汁の絞り方によりタンニンが多く渋い赤ワインとタンニンが少なく液色の薄い白ワインにわかれており、赤ワインの種類も多数あり品種や産地により味・風味も様々存在し主に肉料理によく合う。渋みの強さなどによりフルボディ・ライトボディ・ミディアムボディがあると、調べると書いてありました。当初は味?風味?渋み?キン

肉マンビックボディは知ってるけど何それ?状態でした。とりあえずよくわからず、自粛生活も重なって色々なワインを片っ端から買って家で飲んでみよう!そんな軽い気持ちで始め、近所のコンビニの店頭商品を飲みあさり、続いて近所のスーパーのワインを飲みあさり今度は少し遠いスーパーまで買いに行き……。年末には白ワインも飲み始め……。書いてる文章だけでは、毎日酒しか飲んでないようですが、仕事に支障がない程度です(笑)。がワインを飲むよりもいささか出かける口実欲しさになっているようなところは否めません(汗)。飲み比べると原産国によって味や風味が違い、渋みの強さというものがあるとなく解ってきましたがまだまだ飲み足りません!お小遣いの許す限り最高のワインに出会えるまで飲み続けられたらと思っております。BBQで焼いたアボカドを食べながらワインを飲む休日を夢みながら日々の仕事に専念している今日この頃、ワインの通な飲み方やアボカドの美味しい料理法などご教示いただけますと幸いです。

皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。次号の原稿のバトンを山口支部松清先生にお願いしました。

山口支部 鈴木和弘  
(ナナ動物病院)



最近手に入れた和食にあう白ワイン5本セットです。

### 新人会員紹介



山口大学を卒業し、十数年小動物の臨床に携って参りました。いつの間にか、年月が過ぎてしまいましたが、日々の診療に悩むことも多く、まだまだ勉強中です。

プライベートでは、7歳、5歳、2歳のわんぱく三兄弟の子育てに奮闘しています。獣医師と母の二足のわらじは大変ですが、いい職場に恵まれ、何とか続けております。

子育ては私が思っていた以上に大変です。子供を産む前は聞き分けのいい子供達に囲まれ、微笑ましい毎日を思い描いていました。しかし、現実には正反対。

### ママ獣医師奮闘記

下関支部 植村留美  
(ももまるペットクリニック)

子供達に振り回されあたふたするばかり。スケジュール通りに物事が運ぶことはまずありません。

例えば朝。出勤間近になると、次女の保育園に行きたくない劇場が始まります。やっと、行く気になったところで、三男が牛乳を大胆にこぼし大惨事。着替えさせようとするのでズボン履きたくない大暴れ。仕方なくパンツのまま車に担ぎ込みます。そうこうしていると「おしっこもれたー」とトイレから次女の叫び声。

何とか、保育園までたどり着くと、何かがお気に召さない三男が保育園の玄関で転がり、先生に連行されてきます。

これが、私の朝の日常です。

動物病院には小さいお子様を連れた患者様もたくさん来られます。子供を産むまでは、気になりませんでした。来院まできっと大変だろうなと思います。病院での待ち時間にお子様がぐずってしまったら、診察中もお子様の動きが気になって、診察に集中できないかもしれません。

そのような患者様以外にも、お話を伺っていると、御両親を介護されている方、ご自身が通院されている方、皆さん様々な事情を抱えながら、大切な家族である動物たちを病院に連れてきてくださっています。

そんな方々のご負担を少しでも軽くできないかと考えこの度、往診専門犬猫病院「ももまるペットクリニック」を開設することになりました。往診専門に

こだわったのは、小さな病気やちょっとしたご事情でも気兼ねなく往診をご利用いただくためです。しかし、すべての病気を往診だけで解決できるものではありませんので、下関の先生方にはお力添えを頂けると幸いです。

また、普段の診療で往診に行く時間がないけれど、気になる患者様がいらっしゃる先生、ご紹介いただければ、往診いたします。安心して引継ぎができるよう治療内容を明記した診療報告書を飼い主様にお渡しいたします。

少し宣伝になりましたが、新年を迎え、ママ獣医師として新しい挑戦をしていきたいと思っております。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 目が疲れる

県庁支部 山下 太郎

(農林水産部畜産振興課)

皆様、最近困っていることはありますか？私は目が疲れて困っています！

それは、私10年ほど前にレーシックをしたことが影響しています。レーシックを受けるかどうか検討している方はぜひ参考にしてください(笑)

レーシックの前に私の小さいころからの話をしますと小学生から高校まで宇部で過ごしましたが、小中学校までは視力は良く視力検査ではいつも一番下まで見えていたので同級生に驚かれていました。当時はコンタクトレンズが市内でなかなか買えず、仲の良い同級生はコンタクトを買うため、小倉まで行っていました。私は両親、祖父母を含め皆視力が良かったので、無縁な話とと思っていましたが、高校生の時に携帯のゲームが流行り、眼が悪くなり始め、大学生になるとコンタクトをすることに。

コンタクトを着けたり外したりに煩わしさを感じていたので、大学の時にレーシックを検討し始め、就職1年目について当時、大手であったクリニックでレーシックの手術を受けることにしました。クリニックのプランでも使用する機械によって25万、20万、15万と3つのプランがあり、一番高いプランを選びました(お金も無いけど大事な眼のことなので安いプランを選ぶ勇氣はなく)。

眼科検診程度の前日の検診があり、いざ当日。術前は手術台にのり一人の医者が執刀するイメージでしたが、実際は流れ作業の物になった気分でした。

1つ目の部屋で麻酔の目薬と眼を強制的に開ける器具を装着

2つ目の部屋で、角膜をレーザーで切り角膜をめくる(ここからは眼が見えなくなります)

3つ目の部屋で、角膜の内側にレーザー照射

4つ目の部屋でめくっていた角膜を戻す(ここで眼が見えるようになる)

という流れで患者が移動するといった形でした(眼が

見えない間は手を引かれ)。

術日に視力は良くなり、以降10年間悪くならず満足はしているところです。

しかし、2点の後遺症、①老眼が早くくること②光がまぶしく見えることを事前に説明受けていたのですが、

①については、37才の今は感じないですが、②について、私はかなり感じていて前の車のブレーキランプが眩しい、パソコンのライトが眩しいなど眼が疲れる原因となっています。パソコンのライトで眼が疲れることについては、ブルーライトカットの眼鏡をして対策をしているところです(眼鏡をしてもパソコン作業は疲れますが、かなり効果あるのでお勧めです)

最後に視力の良かった父親もスマホの見過ぎで60代にして遠くが見えなくなったと言っていたので、視力が悪くなるのは生活習慣が大きいのではないかと自分は信じています(高校の時、携帯ゲームをしすぎたことを後悔しています)。子供もテレビゲームをしています。子供もテレビゲームをしていますが、テレビから離れさせ、視力が悪くならないようにと願っています(テレビゲームをしなければ1番ですが、子供の頃の私を見ているようでそこは諦めています)。



子供とテレビゲームをする様子。子供の眼鏡は度が入っていないブルーライトカットの眼鏡です(子供も疲れにくいと言っています)。

## 訃報

## 平田由美先生のご逝去を悼む

山口支部長 藤原宣義



元ひらた動物病院院長でした平田由美先生が12月16日に肺癌でご逝去されました。先生は昭和36年に熊本県でお生まれになり、麻布大学をご卒業の後、一時宮崎県のみやた動物病院に勤められた後、昭和63年9月に山口市宮島町でひらた動物病院を開院され、永く地域の動物医療、狂犬病予防、動物愛護にご尽力されておられました。この間、支部理事や各委員を務められ、平成23年には県動物保護管理協会から功労者表彰、平成29年に県獣協会

長表彰を受けられ、各方面でご活躍されておられました。令和2年2月に体調を崩され、その後加療しながら一時退院されておられました。6月に再入院され、7月に病院を西村洋祐先生に譲られ、病と闘ってこられました。12月10日に病状が悪化し、16日未明に帰らぬ人となりました。17日に自宅近くのベルコホールにて、浄土真宗本願寺派によりしめやかに葬送の儀が営まれました。コロナ禍の中で小人数でとのことでしたが、田中県獣会長、他数名の獣医師、近親者や友人と大勢の参列者が見送られました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 県産和牛の統一ブランドを発表しました！

県庁支部 伊藤優太

(山口県農林水産部畜産振興課)

令和2年12月16日(水)、山口市内において県産和牛統一ブランド発表会を開催しました。

本ブランドは、県産和牛肉の積極的なPR展開を通じてさらなる需要拡大を図ることを目的に、本年9月に設立した生産者団体及び食肉関係団体等で構成する山口県産和牛ブランド推進協議会(会長：金子光夫(山口県農業協同組合代表理事組合長))が主体となって、新たに創設したものです。

なお、今回の統一ブランドの取組は、県内に多数ある地域ブランド等を一本化するものではなく、一定の品質基準を満たしていれば、販売方法等によって使い分けていただき、共存・共栄を図りながら県産和牛全体のブランド力を高めていくものです。

発表会当日は、協議会委員をはじめ、山口県知事、山口県議会議長、山口県議会農林水産委員長、消費

者団体及びブランド和牛肉取扱店の方々にご列席いただき、統一ブランド「やまぐち和牛燦(きらめき)」の除幕式を行い、シンボルマークのお披露目に合わせて、ブランド和牛肉の調理実演や試食が行われました。

また、翌日からは、県内の参加取扱店17店舗において、1ヵ月間限定の消費拡大キャンペーンをスタートしました。

今後、取扱店への販売促進支援や食肉市場でのプロモーション展開等を通じて、県産和牛のブランド力の向上と高付加価値化につなげ、安定的な肉用牛経営に資することとしています。

なお、「やまぐち和牛燦(きらめき)」の詳細は、JA山口県ホームページ(URL: <https://www.ja-yamgor.jp>)で閲覧できます。



「やまぐち和牛燦(きらめき)」ロゴマーク



除幕式

## 事務局だより

12月3日 ・小動物部会委員会 山口市(県獣会館)  
12月4日 ・第3回理事会(決議の省略) 山口市(県獣会館)  
12月17日 ・公益法人事業協議 山口市(県庁)

12月23日 ・会報編集委員会 山口市(県獣会館)  
12月10日、24日 ・事業推進会議

次回編集委員会 1月22日(水) 13:30~

山口県獣医師会会報 第716号 令和3年1月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail: yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 上田晋平

発行責任者 田中尚秋

印刷 コロニー印刷



# 打ってないの!! 狂犬病予防注射

狂犬病は、犬だけでなく、人にも感染する病気です。発症した場合、ほぼ100パーセント死亡します。この病気は、日本、英国、オーストラリアなどの一部の国を除き、全世界で発生しています。



狂犬病の  
予防注射は毎年  
受けていますか  
(毎年1回)

犬の登録は  
お済みですか  
(生涯1回)

犬鑑札

山口県  
市町

狂犬病予防注射済  
2021年度  
山口県市町

## 狂犬病予防の注射は飼い主の義務です

犬の飼い主は、以下の義務を守りましょう。

**(1) 飼い犬の登録**

生後91日以上の子犬は、お住まいの市町で登録手続きが必要です。登録は犬の生涯1回が基本です。引越などの場合は市区町村への届出が必要となります。

**(2) 年1回の狂犬病予防注射**

予防注射をすることで、犬を狂犬病から守ることにより、人への感染が防止できます。

**(3) 鑑札と注射済票の装着**

登録鑑札、狂犬病予防注射済票は、犬に装着しておかなければなりません。

※迷子になったときのためにあらかじめ、登録鑑札、注射済票の装着に加え、マイクロチップの埋込みをお勧めします。

## 4・5・6月は狂犬病予防注射月間

※4月から各市町が、会場を設けて登録と予防注射を同時に行います。詳しくは市町広報紙をご覧ください。

(公社) 山口県獣医師会 (公社) 山口県動物保護管理協会 市町 山口県